

表紙に使用している画像は、小川和紙の「雲龍紙」。楮の繊維をちぎらずに長いまま混ぜ込むことで、紙の中に雲や龍がたなびくような流れ模様が生まれます。1枚ごとに表情が異なるのも特長です。

9年ぶり 議会だよりリニューアル

「こどもまんなか」特別号

読む伝える

「4つのまんなか特集」

- P. 2～5 こどもまんなか応援サポーター宣言
- P. 6～7 観光まんなか 道の駅リニューアル
- P. 8～9 進み続ける議会 改革どまんなか
- P.10～11 アクションまんなか 委員会活動

見る魅せる



小川町議会の
紹介



こどもまんなか応援
サポーター宣言



広報委員による
道の駅の取材

ゴドモモイタイ
(竹沢小学校編)
裏表紙に関連記事



No.116

発行...埼玉県小川町議会

令和7年6月定例会
会期：6月3日～13日

2025. 8. 1 発行



防犯パトロール
隊でこどもの見守
りと、孫ファース
トをしています！



高橋さゆり議員

引き続き、かけ
がえのないこど
もたちの安全を
見守ります！



笠原規弘議員

孫活で多くのこ
どもたちとの触
れ合いを大切に
しています！



岡部久志議員

毎朝、登校の見
守りを行っています！



関根慶則議員

こどもたちが地
域の魅力を体験
できる機会づくり
を継続中！



五十嵐康博議員

困っていること
もを見かけたら、
やさしく声をかけ
ます！



稲村穠治議員

ダウン症の息子
をお風呂に入れ
るのが日課です！



田端良成議員

こどもまんなかアクション第1弾！ ～「こどもまんなか特別号」のお届け～

表紙に登場してくれた元気ハツラツな6人をはじめ、
竹沢小学校の全面協力を受けて完成した今号が、
多くの皆さんの【心】に響き、こどもまんなかの輪
が広がることを期待します！



あと1年半で
竹沢小も閉校に。
「心の竹」で
グングン成長を！

議会だより初の
ドローン撮影



こどもたちの
居場所を広げ
たいです！



鈴木秀尚議員

こどもたちを主眼に、
地域住民の住環境
や道路の安全対策
を行っています！



島崎隆夫議員

学校運営協議会委
員として、こどもたち
を見守っています！



笠原英彦議員

自宅前が通学
路。「いってらっ
しゃい」「おかえ
り」の声かけ！



田中立男議員

小学生3人の子育て
に奮闘中…です！



高瀬 勉議員

こどもと大人をつ
なげるボランティア
活動。ワクワクし
ながら続けたい！



山口勝士議員

こどもたちの明る
く元気な声が飛び交
う町にしたい！



大戸久一議員

令和7年6月13日（第2回定例会最終日）に、埼玉県内の町村議会としては初めてとなる
【こどもまんなか応援サポーター宣言】を行いました。これまで以上に、こどもたちが健康
で幸せに成長できる社会の実現を目指し、様々な「アクション」に取り組んでいきます！

地域の皆さんと、
こどもたちの安全
な登校をサポート
して7年目です！



高橋功人議長

「こどもまんなか応援サポーター」宣言
小川町議会は、こども家庭庁が掲げる
「こどもまんなか」の趣旨に賛同し
「こどもまんなか応援サポーター」に
就任することをここに宣言します。

七夕のこども神
輿の復活を応援。
孫の送迎は私の
役目です！



田中照子副議長



中嶋和星さん

おいしくて
バランスの良い食事を
提供する料理人



櫻井優里花さん



田谷柚葉さん

ほのぼの正社員



伏見柊斗さん

自衛官

工業高校に行って
タミヤに入りたい



神田総さん

家族を大切に
すること、押しグッズ



石川乃愛さん

プログラミングをする
仕事がしたい



笠原このかさん

家族、
ぬいぐるみ、
タブレット、
テレビ、家



尾上翔哉さん

家族、大工



石原維人さん

ユーチューバー
(ゲーム実況)



若林蓮希さん

日本代表
バレーボール選手



島田ちづるさん

機械系の仕事



山田紬心さん

家族、モデル



岩崎瑠愛さん

家族、パン屋



佐藤光希さん

チョコレートが
好きなので
meijiに就職する



石川丈祐さん

家族、友達、
パティシエ



高荷ほたるさん

ペットショップの
店員



尾上真優さん

竹沢小6年生17人の

「まんなか」おしえてー！

前頁に続き、登場してくれたのは「竹沢小学校6年生」の皆さん！小学校生活も残り8か月。「まんなか」と称して「今、大切にしているコトやモノ。将来の夢・希望」を聴きました。議会は、これまで以上に「次代を担うこども達のためのアクション」を図っていきます！



Gikai's eye

こどもたちの笑顔のために

「こどもまんなかアクション」の第1弾となった特集（表紙～P5）では、竹沢小の全校児童の皆さんに登場してもらいました。議会だよりでは初導入となったドローンでの空撮！機材・技術の提供をしてくれた水島さん（地域活性化起業人）にも感謝です。チャンス・チョイス・チャレンジ・チェンジ。こどもたちの笑顔のために、議会の歩みは続きます…！

「こどもまんなか」宣言に基づく主なアクション

議会は、広報広聴活動で「こども・若者の声」を積極的に発信します。
議会は、町民・企業・各種団体に「こどもまんなか」への参加を呼びかけます。

議会は、町との協力で「子ども・子育て支援」の充実を後押しします。
議会は、教育委員会との協力で「こども議会や主権者教育」の充実に努めます。



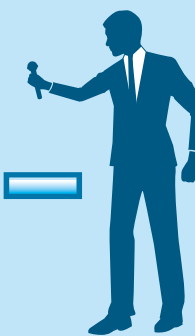
待望の

令和7年5月30日(金)

道の駅リニューアル

令和4年2月に策定された「道の駅おがわまち再整備基本計画」から、様々な議論が行
オープンしたての6月21日(土)に、編集委員全員で賑わいを見せる「現場」に足を運び、

町活性化へ向けて 観光客にインタビュー



われ、3年3か月の時を経てリニューアルオープンを迎えました。
町外からの来場者を中心に、話を聴いてみました。

手漉き和紙体験
楽しんでください

坂戸のお友達を早速誘って、訪問しました。
こんなにきれいになって驚いています。これ
をきっかけに小川町の魅力が広がり他の
地域からたくさん来てくれるといいな
と思います。素敵なおうちができました！

土本 伝統工芸施設長

今回で2回目。混んでいるので、あまり施設内を見ていません。
駐輪場設備、特にスタンドが非常に素晴らしい。
この施設については、自転車仲間でも話題になっています。

小笠原敏孝さん(ふじみ野市)

斉藤隆貴さん(ふじみ野市)

たくさんのお越しを
お待ちしております

吉野駅長

青野真也さん

香織さん

陽奈さん

真奈さん

莉奈さん

待ちに待った道の駅リニューアル。
隣の広場には遊具や「井戸」があって子どもたちも大喜び！
子どもが多いので「体験メニュー」はもう少し安いと嬉しいです(笑)。
青野さんファミリー(上尾市)

友人の相田さん(坂戸市)

武川さん親子(東小川)

和紙体験は楽しかったです。
子どもたちに好評だったのは、ふれあい広場のふわふわドームとオガワソフトです。
近くの分校カフェ・モザートや見晴らしの丘公園も魅力的ですね。
山内さんファミリー(東京都武蔵野市)

山内翼さん

結衣花さん

陽貴さん

ふれあい広場で子どもたちと遊び、アイスクリームを食べて、楽しみました。売店は、試食が多くあり、商品も充実して手に取りやすかったです。
できればふれあい広場の全てのベンチに屋根をつけてほしいです。
バーベキュー場もできると聞いて、楽しみにしています。山崎さんファミリー(葛尾町)

芽依さん

伊世さん

田川正吾さん

小川町周辺で仕事をしていたので、オープンしたら家族で来てみたいと以前から考えていました。
里山農園プレートハンバーグと里山野菜カレーはおいしかった。
インスタ映えて、女性に受けそうですね。
田川さんファミリー(千葉県野田市)



Gikai's eye

地域活性化の拠点へ

「道の駅リニューアル」特集は3回目。工期延長など予期せぬ出来事もあったが、リニューアルオープン後は順調な来場者数となっている。今後は、来場者が町全体を回遊し、町の賑わいにつながることを期待する。施設の維持管理費には費用対効果の視点を忘れず、まさに「地域活性化の拠点」として、継続できるよう引き続き注視・議論していく。

定数の見直しに向けた 議員定数条例の一部改正へ

議員定数検討特別委員会は9回にわたる活発な議論を重ね、下記の報告をまとめた。今後は、全議員で報告を元に定数の見直しに着手。9月定例会（予定）でその是非を問う。



ワークショップ方式による課題の洗い出しなど真剣な議論を重ねた。

地方議会の現状・課題と向き合った講師（大正大学 江藤教授）を招いての研修会。



「議会に」「議員に」
今、何が求められているのか

議員定数検討特別委員会の報告

(1) 結論

議会改革を進めていく前提で、議員定数を16人から削減することが適切と考える。ただし削減数は、今後、全議員での議論に委ねる。（委員会では1人から2人の意見が多かった）

(2) 主な議論

「多様な住民意見を酌み取るために削減は必要ない」「多様な議員の誕生のために、現状の16人は必要である」「定数削減で、地域や地区からの声や要望を届けられなくなる」「16人いるからできるということではない」「議員数ではなく、議会の在り方や一人一人の議員力の向上こそ重要である」といった議論を重ねる中で、改革・活性化の取組が進んでいることを踏まえ【削減が適切】という合意に至った。



Gikai's eye

次回の町議会議員選挙へ

議員定数の削減は、全国で進む重要かつ難しい議論だ。「議員定数検討特別委員会」の9回にわたる議論は「初めから削減ありき」ではなかった。2年後の改選に向けて「何人削減するか」を全議員によって協議決定し、それに伴う条例改正など次回の町議会議員選挙への準備を進めていく。議員力向上の歩みをさらに力強くしなければならない。小川町議会は丸となって自らの改革を進める。

地区懇談会の定期開催に向けた 広聴特別委員会の設置へ

議長の諮問に基づき議論を進めてきた議会運営委員会は、6月11日に「地区懇談会実施について（答申）」を提出した。地区懇談会の実践を担う「広聴特別委員会」の設置によって、定期・継続的な住民との意見交換の場が生まれる。



令和7年1月26日、多様な3グループと議員による「プレ地区懇談会」が実施された。課題・手順・運営の工夫など多くの知見を得ることができた。



プレ地区懇談会から生まれた議会紹介動画をアップしました。



小川町議会の紹介



答 申

地区懇談会実施（抜粋）

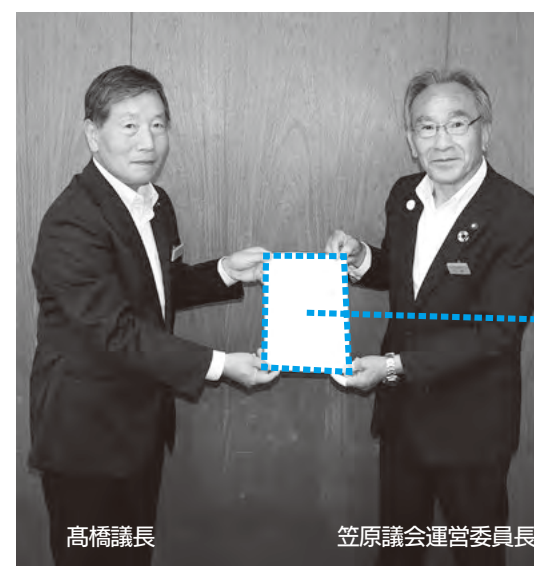
目的 「住民から信頼される議会」及び「住民と共に歩む議会」を体現し「議会の広聴機能の強化」「議員の資質向上」に資するため。

実施計画

(1) 10月下旬～11月中旬
（毎年第3回定例会閉会后）

(2) 4月下旬～5月中旬
（毎年第1回定例会閉会后）

運営方法 新たに「広聴特別委員会」の設置を図り、当該委員会に付託し、検討・対応する。



高橋議長

笠原議会運営委員長

毎号「16人の一歩」では、議会の活性化・改革の実践を紹介してきた。その中心的な2本の柱である「地区懇談会の実施」と「議員定数の見直し」。いずれの取組もいよいよ答申・報告が示された。今、小川町議会は「改革どまんなか」だ。





3 常任委員会「調査研究レポート」

活発化する取組をピックアップ

令和6年9月～令和7年6月の所管事務調査も町が抱える諸課題の解決に向けて様々な視点や手法で励みましたが、また、これまでのアクションを振り返り、さらに充実した取組につなげていきます。



【経済建設常任委員会・厚生文教常任委員会】

研究テーマ 若年女性が求める就業機会の創出と労働参加につながる環境整備

【先進地視察】

日時 令和6年10月21日(月)～22日(火)

場所 静岡県長泉町、山梨県忍野村

出席委員 経済建設常任委員会：稲村穰治委員長、田端良成副委員長
山口勝土、大戸久一、田中照子 各委員

厚生文教常任委員会：高瀬 勉委員長、鈴木秀尚副委員長
島崎隆夫、笠原英彦、田中立男 各委員

【調査研究のまとめ】

先進地視察や、関係課との勉強会・若年女性等へのヒアリングを通じて、消滅可能性自治体からの脱却と「若年女性に選ばれるまちづくり」について知見を深めた。いずれの地においても、官民問わず、仕事と育児の両立を支える様々なサービスが、子育て家庭を呼び込む重要な要素となっている。

現在、町は子育て総合センター「ココット」を拠点に、妊娠期から切れ目のない支援体制を構築しているところだが、ニーズの高まりや多様化に触れ、さらなる子育て支援の拡充や質の向上が求められている。

これまで以上に、人口の自然減及び社会減対策を強化する中で、リニューアルオープンを迎えた「道の駅おがわまち」をPR拠点とし、当町が有する地域資源やポテンシャルを最大限に生かした「サステナブルかつスマートなまちづくりの推進」を期待する。



若年女性に選ばれる町の取組に触れる

【総務常任委員会】

研究テーマ デジタルによる持続可能なまちづくり

【先進地視察】

日時 令和6年11月11日(月)～12日(火)

場所 静岡県小山町、静岡県地震防災センター（静岡市）

出席委員 高橋さゆり委員長、五十嵐康博副委員長
笠原規弘、高橋功人、関根慶則、岡部久志 各委員

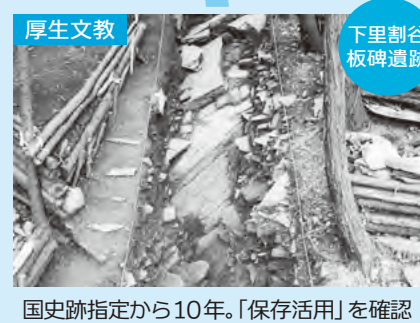
【調査研究のまとめ】

先進地視察を含め3回の委員会、2回の勉強会を実施した。これらの調査結果を踏まえ、デジタル導入の検討と並行して既存業務の見直しや考え方の変革が必要である。重要なことは「町はどのように変革したいのか」「どのようなデジタルサービスが住民福祉の向上につながるのか」という徹底した住民目線と、職員の労働環境改善に資することを前提とし、その成果として創出された時間をさらなる町民サービスの向上につなげていく必要がある。現状維持に固執することなく「誰一人取り残さない」との信念を持ちデジタルによる持続可能なまちづくりと、町民一人一人の利便性向上を目指した住民サービスの実現を切に望む。



先進的な「DX人材の育成」を視察

今回の調査研究で得られた知見を活かし、DXに向けた取組を、議会としても積極的に推進していきたい。



議員が質した聞いてわかった 私たちの町、どうなってる？

今次定例会（6月3日から13日までの11日間）では「物価高騰対策」や「部活動の地域移行」に係る一般会計補正予算をはじめ、ふるさと納税の使い道を広げる「寄附によるまちづくり条例」の一部改正など、全12議案を審議しました。主なやり取りをピックアップします。



発言全文（小川町議会会議録）は9月上旬から町ホームページで閲覧できます。

一般会計補正予算

国の交付金で行う町独自の物価高騰対策は「省エネ家電買い替え促進補助金」を実施

Q 前回（令和5年度）行った同補助金事業は、好評につき開始から40日程度で予算枠に達した。ほぼ同額の予算（706万円）が示されたが十分か。また「ゼロカーボンシティ」への効果等は。

A 予算枠は、過去の実績を踏まえるとともに、先に進めるゼロカーボンシティ補助金とのバランスや、財源となる国の交付金の有無などの持続性を考慮し、配分・決定しました。また、省エネ推進の重要性を認識する機会と捉え、申請状況や効果を注視していきたいと考えています。

高齢者のインフルエンザ予防

Q 当初予算では対象者に1500円の自己負担を求める内容だったが、国の交付金を財源に「負担なしでワクチン接種が受けられることになった」という認識でよいのか。

A 物価高騰が続く中、医療機関での窓口払いを無償化にすることで、高齢者の経済的負担の軽減につながるものと考えています。また、無償化することで、接種率の向上を促し、感染や重症化の予防になると捉えています。例年の接種率は約5割ですが、今回の措置で1割程度の接種率向上を見込んでいます。

公共交通への緊急支援

Q 物価高騰による様々な負担増は、公共交通を担う各事業者にとつても死活問題である。支援の背景等は。

A 町民の生活や経済活動を支える公共交通を維持・確保することは重要と捉えています。物価高騰や、慢性的な乗務員不足など、町内を運行する路線バス及びタクシー事業者は、厳しい状況にありますので、支援するものです。

Q 支援の詳細は。

A バス事業者（4路線分）には、事業継続・乗務員確保の取組に対し計700万円と、燃料費高騰分として307万円を支援します。また、タクシー事業者に対しては、1台当たり4万円で16台分の64万円を支援します。

その他の物価高騰対策

学校給食支援

1099万円

食料費の高騰分を公費負担とする。子供や保護者の負担軽減に寄与。学校給食の量や質の維持につながる。

LED化に向けた設計

88万円

小川小学校のナイター照明と武道館の照明が対象。

LED化による施設の利用環境の向上と、省エネを実現。

定額減税補足給付金

1億1935万円

令和6年度に実施された定額減税の一環として支給。所得税及び住民税からの減税が十分に行われなかった場合に差額を補填。

支給額↓所得税分3万円・住民税分1万円が基本。扶養親族がいる場合はさらに加算。

中学校部活動の地域移行

Q 地域移行に向けた「実証事業」に係る指導者への謝金等が示されたが、対象等は。

A 対象となるクラブ及び指導者数は、最大5クラブ・5人分を想定しています。県の地域スポーツ

クラブ活動体制整備事業の補助を活用し、土・日いずれかの活動に

対して、1時間当たり1600円・3時間で4800円を見込んでいます。調整中ですが、各中学校や小川高校の教職員・町スポーツ協会やスポーツ少年団の指導者などへの依頼を考えています。

パントリーの「貸館」再開へ

Q 空調の不具合で長らく貸館業務を休止していた。再開に向けて個別エアコンの設置に係る予算が示されたが、詳細は。

A 令和6年11月に総合福祉センターの方向性の1つとして、貸館業務の早期再開を示したところですが、以来、個別のエアコン設置に向けて業務を進めてきました。部屋ごとの状況に合わせて、壁掛け式や置き型・天井カセット型のエアコン設置を検討しています。町民からの問合せも数多くありますので、1日も早い貸館の再開に努めていきます。

条例の一部改正

寄附によるまちづくり条例

Q 主な改正内容とその目的等は。

A 「町長が適当と認める事業」を追加することで、これまでは充てななかった取組に対し、寄附を募ることが可能となります。具体には「町が被災した場合の復旧に係る経費」や「公用施設の整備」「防災関連事業」等です。また、これまでは寄附金を一度基金に積み、翌年に財源としていたものを基金へ積まずに予算化できるため「寄附者の思いを早期に実現すること」が可能となります。

Q 「ガバメントクラウドファンディング」の手法を活用することにも想定した改正か。

A 現時点で、具体的な事業は考えていませんが、クラウドファンディング等も視野に入れた内容です。近年では、その手法を用いて積極的に財源確保を行う自治体が多数あります。寄附金の財源としての幅を広げるとともに、多様な行政需要や、寄附者の思いに寄り添った展開を考えていきます。



小川町議会だよりは

町民登場に「タワフル」

広い年代の皆さんに、たくさん登場していただきます。



小川町議会だよりは

写真に「コダワル」！

写真は編集委員が「撮る」「選ぶ」。キャプション（写真説明）も工夫します。

全質問項目は小川町ホームページから見られます。議会だよりでは議員ごとに要約版で掲載。全文（会議録）は令和7年9月上旬に公開予定です。

9の視点 一般質問



皆さんはどのテーマに関心がありますか？



「歩いて・見て・聴いた」ことを踏まえ、議員が自身の提言を交えて町に考えを質す。

75分間の舌戦！ 投打走の活躍を見せるオガワギカイ「ナイン」の勝敗はいかに?! 「一問入魂」のQ&Aは必見です!!

P.15 熱中症対策

P.16 買物支援

P.16 物価高騰対策

P.17 部活動

P.17 複合飲食施設

P.18 デマンドタクシー

P.18 地域おこし協力隊

P.19 財政改革

P.19 学びの場

Q 熱中症対策マニュアル等の作成や、暑さ指数の認知度向上が必要と考えるが。

A 健康福祉課長 適切な情報発信など、引き続き熱中症予防対策に努めるとともに、マニュアル作成についても研究します。また、暑さ指数の認知度を高め、数値の示す意味への理解を促していくことも重要と考えています。

Q 高齢者への効果的な予防を進めるための取組は。

A 健康福祉課長 民生委員等の協力で、啓発用のパンフレットや物品の配布・エアコンの適正利用・こまめな水分補給などについて周知しています。また、近所での見守りや声掛けが効果的であるため、地域との連携を図り熱中症予防に努めます。



難聴区域に設置されている戸別受信機

熱中症対策



おかべひさし 岡部久志議員が町に問う！

対策拡大等への考えは

答弁 暑さ指数の認知度を高め理解を促します

防災行政無線

Q 聞こえづらい地域への対応は。

A 防災地域支援課長 山間部や谷間などの難聴区域については、戸別受信機を設置（個人宅や公共施設55か所）しています。電話で確認できる「音声確認サービス」や「おがわ情報メール」等でも対応しています。

今「ゴルフ」にはまってます。五十の手習いです！
(K・Oさん 50歳)



あなたにとっての「まんなか」は？

Vol.30

Mini Interview P.19までつづきます！

オガワマチのこと・ギカイのこと「一緒に見よう、考えよう」

公開します

議決結果はHPでも見られます→



議員の賛否内訳と審議結果

○…賛成 ×…反対

一印…議長は賛否同数の場合のみ採決に参加します

他7議案は全員賛成で原案どおり「承認・可決」しました



審議した主な議案

議案名	田中立男	関根慶則	岡部久志	田端良成	稲村壤治	鈴木秀尚	五十嵐康博	笠原規弘	大戸久一	田中照子	笠原英彦	高瀬勉	高橋さゆり	山口勝士	島崎隆夫	高橋功人	審議結果
一般職の職員の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
寄附によるまちづくり条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
税条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
庁舎高圧受変電設備等更新工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
令和7年度一般会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

要望書の提出

届け！ 小川町民の願い

今会期中の全員協議会において、全会一致で埼玉県の一部局に要望書を提出しました。

A. 環状1号線の早期開通と延伸 → 県土整備部

(継続要望)

環状1号線の開通後は、県道熊谷小川秩父線に接続しただけでは環状線としての機能が十分果たせません。町道209号線（旧根古屋線）までの約300メートルの延伸を要望します。



早期開通に向けて工事が進む「環状1号線」(青山地内)

B. 学校給食費の無償化 → 教育局

(継続要望)

子育て世帯の負担を軽減するとともに、市町村間の財政状況の差異による教育負担の格差が生じることのないよう、国の財政措置による学校給食費の無償化を要望します。

C. 乳幼児医療費対策助成費の拡大 → 保健医療部

(新規要望)

「こどもまんなか社会」の実現の一環として「乳幼児医療費対策助成費」の対象年齢を、通院・入院ともに18歳まで引き上げ、こども医療費の全額負担を要望します。

※小川町では、県負担（通院：小3まで・入院：中3まで）に上乗せして通院・入院ともに18歳まで助成しています。

買物支援



山口勝士議員
が町に問う！

移動販売の実現を

【答弁】 社会福祉協議会等との連携で検討します

Q 高齢者にとって移動販売による「手に取って買物ができる」とへの援助・支援は大切な施策だ。近隣の例や企業との情報交換・協議を進める中で移動販売の実現を。

A 長生き支援課長 令和4年11月の高齢者等実態把握調査において「日常生活で支援してもらいたいこと」の問いに「買物」が上位にありました。自宅近くまで来る移動販売があれば遠くまで行かなくても、自分で気軽に買物ができます。近隣自治体の取組状況の調査や、関係機関との情報交換、社会福祉協議会等とも連携し、検討していきます。

道の駅から町なかへ誘導を

Q 道の駅がオープンした。大きな目標である「町なかへの誘導」



嵐山町で始まった移動販売車両

実現に向け、具体的な手立ては。

A にぎわい創出課長 電動自転車・キックボード・トゥクトゥクの貸出しによる町なか周遊と「町内巡りデジタルスタンプラリー」の開催や町なか施設利用特典付「道の駅おがまちデジタル会員証」の発行など、多くの人の町なかへの誘導を働きかけていきます。

物価高騰対策



高橋さゆり議員
が町に問う！

当町独自の支援策は

【答弁】 省エネ家電買換え助成などを予定しています

Q 物価高騰で、多くの町民から「生活が苦しい」との声を聞くが、政策等の進捗は。

A 政策推進課長 令和6年12月に国が補正予算措置した「個人住民税非課税世帯給付金」は、6月末現在で2757世帯になります。「こども加算」は199人に支給しました。「定額減税補足給付金」は令和6年度分所得が確定し、支給額に不足が生じた人に給付を行う「不足額給付」を準備が整い次第、実施します。

当町独自の支援策は。

A 政策推進課長 令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し「省エネ性能の高いエアコンと冷蔵庫の買換え費用の助成」「高齢者のインフルエンザ予防費用の助成」「小中学校の学



多くの方が期待している買換え補助

校給食物価高騰分支援」などを見込み、予算計上しました。
Q 以前スモリバの活用による電子クーポン事業があったが、考えられないか。
A 政策推進課長 今後国の動向を注視し交付金事業等が示された場合に、社会経済状況等を踏まえ、有効な施策を考えていきます。

部活動



鈴木秀尚議員
が町に問う！

生徒の希望に応える方策は

【答弁】 休日の地域クラブへの移行を進めます

Q 生徒の多様な希望をかなえるために、2つの中学が連携する等の方策は。

A 学校教育課長 一部で合同部活動や拠点校部活動を行っていきます。休日の部活動は「地域クラブ」への移行に向けて、実証事業を始めます。

防犯対策

Q 空き巣や強盗が増加しているが対策は。

A 防災地域支援課長 「防犯講習会」や「こどもあんしん110番の家」等の事業を行っています。警察署からの依頼により「防災行政無線」や「おがわ情報メール」で周知を図っています。



地域防犯の要「駐在所」

複合飲食施設



笠原規弘議員
が町に問う！

食と人をつなぐ横丁の研究を

【答弁】 事業を行うには高いハードルがあります

Q 甲府ぐるめ横丁（山梨県甲府市）は民間企業が手がける貸店舗型の複合飲食施設で、人と食をつなぐ魅力的な空間である。当町でも積極的な研究を。

A にぎわい創出課長 当町で同様の事業を行うには高いハードルがあると捉えています。今後は道の駅の観光客が町内飲食店へ足を運ぶためのイベントなどを実施していきます。

Q 観光協会は自らが稼ぐとともに民間事業者に潤いを与える存在になっていくことを期待する。協会を法人化する目的とは。

A にぎわい創出課長 「道の駅ふれあい広場のレンタル事業」や「水辺deベンチャー・チャレンジ事業」など、拡大する事業規模に対応するため法人化を予定しています。



沿線で最も早い横丁の研究を

コミュニティナース

Q (株)ヤオコーの報道発表に対して連携等を考えているのか。

A 政策推進課長 創業の地である当町への思いから今回の取組につながったと述べられています。その気持ちを大切に、今後まちづくりの様々な施策に連携を図っていきます。

「団子3兄弟の真ん中」。自分も間に挟まれているので親近感があってよく聞いていたな。(T・Sさん 30代)

ひとりで泣くことはできるが、ひとりで笑うことはできない。「出会いを大切に」したい。(A・Oさん 77歳)

ぼくにとっての真ん中は「勉強」です。それは勉強することでいろいろな知識が学べるからです。(O・Tさん 13歳)

大病を患った私。今は「家族と過ごす時間」が一番です。(M・Sさん 60代)



国の補助金を 受けて運営を

【答弁】 補助要件が限定的で難しいと捉えています

Q 現行のデマンドタクシーは、国からの補助金を受けずに運営されているが、今後は。

A 都市政策課長 改めて国土交通省関東運輸局に確認をしました。が、運行形態を変更しても補助要件が限定的で、補助を受けることは難しいとの見解でした。

Q 物価高騰が続く中での料金値上げを、町はどう捉えているのか。

A 都市政策課長 持続可能な事業とするために改定したものと理解しています。

Q 当町も予約制にできないか。

A 都市政策課長 運行事業者に確認したところ「保有する車両や乗務員が限られていること」「乗務員の高齢化や新たな人員の確保」などの課題から、予約制の導入は難しいとの回答を受けました。



9年目を迎えたデマンドタクシー



任期満了後の 定着は

【答弁】 定住定着に向けてサポートします

Q 任期満了を間近に控えた隊員が定住・定着できるよう、町としてサポートはできているか。

A 政策推進課長 起業・就業を含めて当町に定住・定着できるか、各課で定期的に面談を行ってまいります。任期満了を見据えて、資格取得や研修等の費用を活動費として認めています。また、起業・事業承継支援補助金の周知も行っています。



まちづくりに参画するOB隊員

Q 町にとって文字どおり「地域をおこした」かけがえのない存在だが、連携は取れているか。

A 政策推進課長 任期満了後の隊員と継続的に連携を図る制度はありませんが、コワーキングロビーNESTOで現役隊員との情報交換の場として月1回程度のミーティングを行っています。



安定的な財源 確保は

【答弁】 今の水準で財源を維持することは難しいです

Q 住民税に替わる安定的な財源の確保は。

A 政策推進課長 人口減少に伴う住民税額は今後減少の見通しです。この減少分を補填する地方交付税①がありますが、減少分の全てを補填するものではありません。今の水準で財源を維持することは難しい状況と認識しています。

Q 減少する住民税に替わる財源維持に向けた具体的な取組は。

A 政策推進課長 財源確保の観点で言えば、新規設備への投資に伴う固定資産税の増収に留まらず、雇用創出で働く人が増えることで住民税の増収にもつながる「企業誘致」について、全庁的に取り組んでいます。

Q 歳出において、今後も経常的経費や義務的経費②が増加する



企業誘致による財源確保を



個の尊重と 協調性の獲得は

【答弁】 発達段階を理解し適時適切に進めます

A 学校教育課長 設置されている全ての運動器具や敷地内の樹木を、毎月点検しています。

Q 文化財の保護は、過去から将来に継承すべき大切な事業である。これらを学びにつなげる取組は。

A 生涯学習課長 大人・教職員のための「おがわ学」講座で、文化財を題材に出前講座等で普及啓発に取り組んでいます。



東中の再編も進む。特色ある教育を

小川町議会だよりは 見出しにコダワル！

内容が一目でわかり、記事を読みたくなる見出しをつけます。

「激辛ラーメン」にハマっています！
寒くない「北極」です。(T・Mさん 39歳)

バランスですね。何もしないのもダメ。
やりすぎてもダメ。「ちょうどいい」
ことかな。(I・Iさん 50歳)

ものづくりや課題が解けると、達成
感が得られ、面白さとさらなる「チャ
レンジ」が増します。(H・Yさん 60代)

ぼくの真ん中は「家族」です。それは
家にいると安心できるからです。
みんなありがとう。(I・Sさん 10歳)

わたしの「まんなか」

人との つながり

藤澤矢壽江さん
(中爪グリーンヒル)



小川町に引越して来て約40年、2人の子どもたちは今や中年です。

今、私は自由な時間を持つことができ、いろいろなことに興味を持つ性格のため、週1回、日本語ボランティアでネパールの女の子(小学5年生)を担当していて、彼女の明るさに癒やされています。また、別の日には「放課後子供教室」で2年生を担当し宿題を見たり、校庭で遊んだりして若いパワーをもらっています。

このように動けることに感謝です。健康で動ける今、わたしのまんなかは「人とのつながり」です。

人を 大切に

梅澤直子さん
(仲町)



嫁いで66年。いろいろなことがあった。若さと前向きさだけで、家族や人のためにがむしやりに挑戦し、苦にならずに動いてきた。気がつけば近所の方に恵まれ、毎日自分らしく生活を送る「今」へとつながった。「人を大切にする」それが「わたしのまんなか」に、どしんと座っている。

小川町は住みやすい町だと心から思っている。若い人が自分の手で「自信」をつかみ、人とつながっていく町にさらになっってほしいなと思っています。

編集委員の 任期を 終えて

高橋功人 発行責任者
16人で取り組んだ「議会改革・活性化」の様子が、紙面を通して少しでも皆様に感じていただけたら幸いです。



山口勝士 委員長
委員長の大役が終わりホッと。議会の前向きさ・委員全員の向上心を感じてもらえたら本当にうれしいです。



鈴木秀尚 副委員長
記事づくりには取材がつきもの。取材時にお話を伺う中で、生きがいや町の課題を知ることができました。



高瀬 勉 委員
汗と涙と寝不足の結晶…7人のオジサンが2年間で紡いだ6万4000字。思えば私の「まんなか」は「議会だより」だったのかもしれない。



関根慶則 委員
編集の難しさを痛感した2年間でした。大変お世話になりました。読者の皆様にも御礼申し上げます。



岡部久志 委員
人生は学びの連続、しんどい経験こそ「自分を磨くチャンス」と捉え携わった2年間。委員皆さんの笑顔に感謝。



田端良成 委員
編集委員を通して、小川町の良さを再発見し、多くの人と出会えたことが、大きな学びとなりました。感謝!



・今号の表紙・

竹沢小1年生「なかよし6人組」



みんなが集まれば、自然とはじける笑顔。これからも「ズッ友」だよ!

次の定例会は **9月2日(火)～** 午前10時 開会予定

※日程は変更になる場合があります。詳しくは小川町ホームページへ



発行責任者：小川町議会議長 高橋功人

編集：議会広報発行特別委員会

委員長 山口勝士 副委員長 鈴木秀尚
委員 高瀬 勉・関根慶則
岡部久志・田端良成



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています